caprice

owners manual

2020.09.03 改訂版

この度は caprice(カプリス) をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本書は、安全・快適で社会環境にも優しい使用をして頂くために正しい取り扱いと簡単な点検・手入れについて説明してあります。取り扱いや点検・手入れを誤りますと故障や事故の原因になりますので、caprice をご使用する前に必ずお読み下さい。

▲危険、△警告、⚠注意、👍アドバイス、📚知識、＊のマークのところは重要です。これらの記載事項を守らないと障害を負ったり事故の原因になり、また、保証をお受け出来ない場合がありますので、よくお読み下さい。注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく場合があります。いずれの場合も安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。

▲危険

部品自体が危険性を内包し、取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる事項です。

△警告

取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な障害につながる事項です。

⚠注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車両などの物的損害につながる可能性がある事項です。

👍アドバイス

車両の正規性能を確保するために守って頂きたい事項です。

📚知識

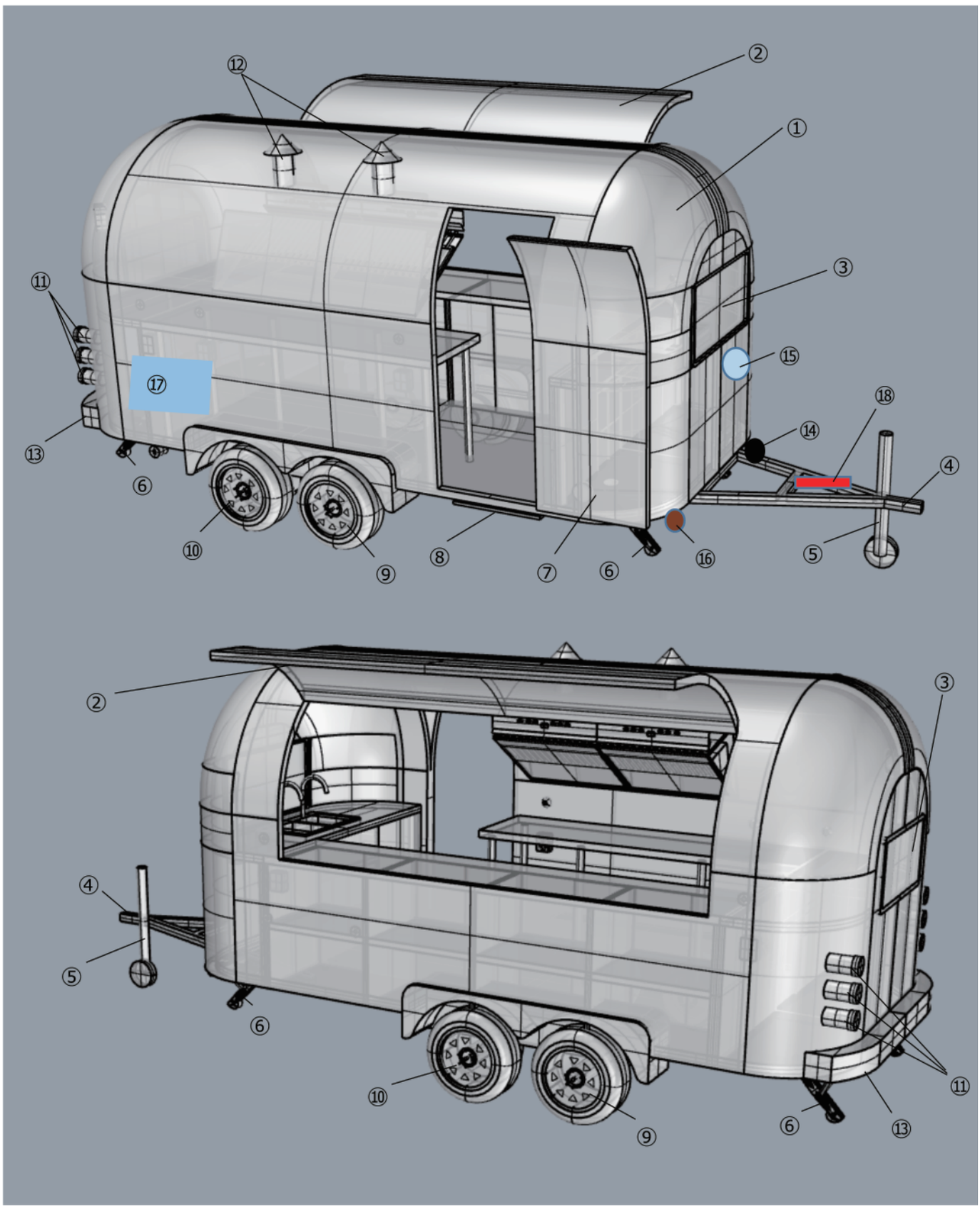
知っておいて頂きたい事、知っておくと便利な事です。
＊取り扱い、運転方法、点検整備に関しての参考となる事項です。

知っておいて頂きたい事

本書はオプションを含む装備の説明をしています。その為、お客様の caprice にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、caprice の仕様変更により、内容が一致しない場合がありますのでご了承下さい。販売店で取り付けられた装備（オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読み下さい。イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の装備と一致しない場合があります。

👍アドバイス：caprice が国土交通省に登録した部品以外のものを装備すると、不正改造になる事があります。車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

caprice 外装図



caprice 各部名称

① ボディ：ステンレス製（SUS304）
② オープンセールスウインドウ（オーダーにより形状、サイズが異なる場合があります）
③ 小窓（前後にあります。オーダーにより形状、サイズが異なる場合があります）
④ ロッド（牽引時にトレーラーと牽引車を接続します。先端に 2 インチのヒッチカプラー付）
⑤ トレーラージャッキ（ALKO 製）
⑥ スタビライザー（トレーラー停車時の水平調整）
⑦ ドア（ダブルロック式）
⑧ 格納式ステップ
⑨ 前後輪
⑩ 後後輪
⑪ 保安器具（ブレーキ、ウインカー、バック、車幅灯、反射板、ナンバーフレーム）
⑫ レンジフード（換気扇）排気口（オーダーにより装備されない場合があります）
⑬ リアバンパー : ステンレス製（SUS304）
⑭ 7 極コネクター（配線付）
⑮ 給水口（ロック付、オーダーにより位置、形状が異なる場合があります）
⑯ 排水口（ドレン付、オーダーにより位置、形状が異なる場合があります）
⑰ 100V 電源口（オーダーにより位置が異なる場合があります）
⑱ 駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）

注意事項

① ボディはステンレスですので錆びませんが、鉄粉がボディに付着するとその鉄粉が錆でボディが茶色くなります。
📚知識：鉄粉が付着した場合は鉄粉用のクリーナー（粘土等）で除去して下さい。
水垢等はクエン酸とスポンジ等をお使い下さい。
② 両端にウインドウをロックするバーが付いています。
△警告:走行時は必ずロックしてください。走行中にウインドウが開き、事故の原因になります。
③ オプションで全面タイプのウインドウや扉付きなどもございます。扉付きはウインドウと同じように走行時は必ずロックして下さい。
④ ヒッチカプラーには外れ止めのロックと予備チェーンがあります。
⚠注意：牽引車と接続時は必ず両方使用して下さい。
⑤ トレーラージャッキのタイヤは格納式です。最小までジャッキを下げるとタイヤが格納状態になります。
△警告：牽引車に接続時以外は最小までジャッキを下げないで下さい。牽引車に未接続の状態で格納すると一気に前荷重となり、ケガをする事故につながる恐れがあります。
⑥ スタビライザーは車内の揺れを軽減させるものです。タイヤが地面に接地した状態でスタビライザーを調節して、車体を平行にして下さい。
⚠注意：スタビライザーの 1 つの耐荷重は 500Kg です。スタビライザー 4 つですべての車重を持ち上げて使用するものではありません。
△警告：危険ですからスタビライザーでジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないで下さい。
📚知識：スタビライザーは重要な役割を担う部品ですので定期的にグリスアップをお願いします。

⑦　ドア 1800 ㎜ ×700 ㎜　ロックはメインロックと簡易ロックの 2 つがあります。

⑧　ステップ本体を手前に引きながら下に力を加えながら引き出します。
▲危険：（走行時は必ずステップを格納した状態にして下さい）

⑨　185R/14LT/　8PR：左右電気ブレーキ付

⑩　185R/14LT/　8PR：左右電気ブレーキ、駐車ブレーキ付
＊⑨⑩に装備される電気ブレーキは牽引車のブレーキに連動して caprice のブレーキが作動します。
📚知識：運転をより安全にする為にブレーキコントローラーの装着をお薦めします。
ブレーキコントローラーとは牽引車のブレーキの強弱に応じてカプリスのブレーキに強弱を加えるものです。
📚知識：タイヤ 185R/14　対応空気圧（kPa）450

⑪　図の保安器具の他にトレーラー用として前面に車幅等兼反射板、両横面に反射板、後面に三角反射板が装着されます。

⑫　換気扇はオプションとなります。レンジフードを取り付けしない場合は天井に埋込換気扇を取付けます。

⑬　リアバンパー　ステンレス製です（SUS304）

⑭　丸型の 7 極コネクターとなります。ブレーキ、ウインカー、ストップランプ等に連動するケーブルも付属しています。
📚知識：牽引車にブレーキコントローラーを取り付けされる場合は、車体側のコネクターの黒（予備）にブレーキコントローラーの信号線を接続して下さい。

⑮　ロックを外して給水します。

⑯　ドレンのバルブを開くと排出されます。ドレンのサイズは 1 インチです。ホース等を接続して延長することも出来ます。＊接続用のカプラーや延長用のホースは付属しません。

⑰　外部電源（100V）とトレーラー内の電気を接続します。接続ケーブルは付属します。
▲危険：トレーラー内の許容電力は合計 1500W です。仕様によりトレーラー内にコンセントを複数取付けている場合も 1 系統の接続となりますので合計で 1500W を超えて使用しないで下さい。使用方法によっては 1500W を超えて使用してもブレーカーが作動せず、ブレーカーが作動する前に、コンセントやスイッチ等の器具、配線などがショートして事故の原因となります。必ず許容電力内でご使用下さい。重大な事故に繋がる場合がございますので、ご不明な点がございましたら問い合わせ下さい。

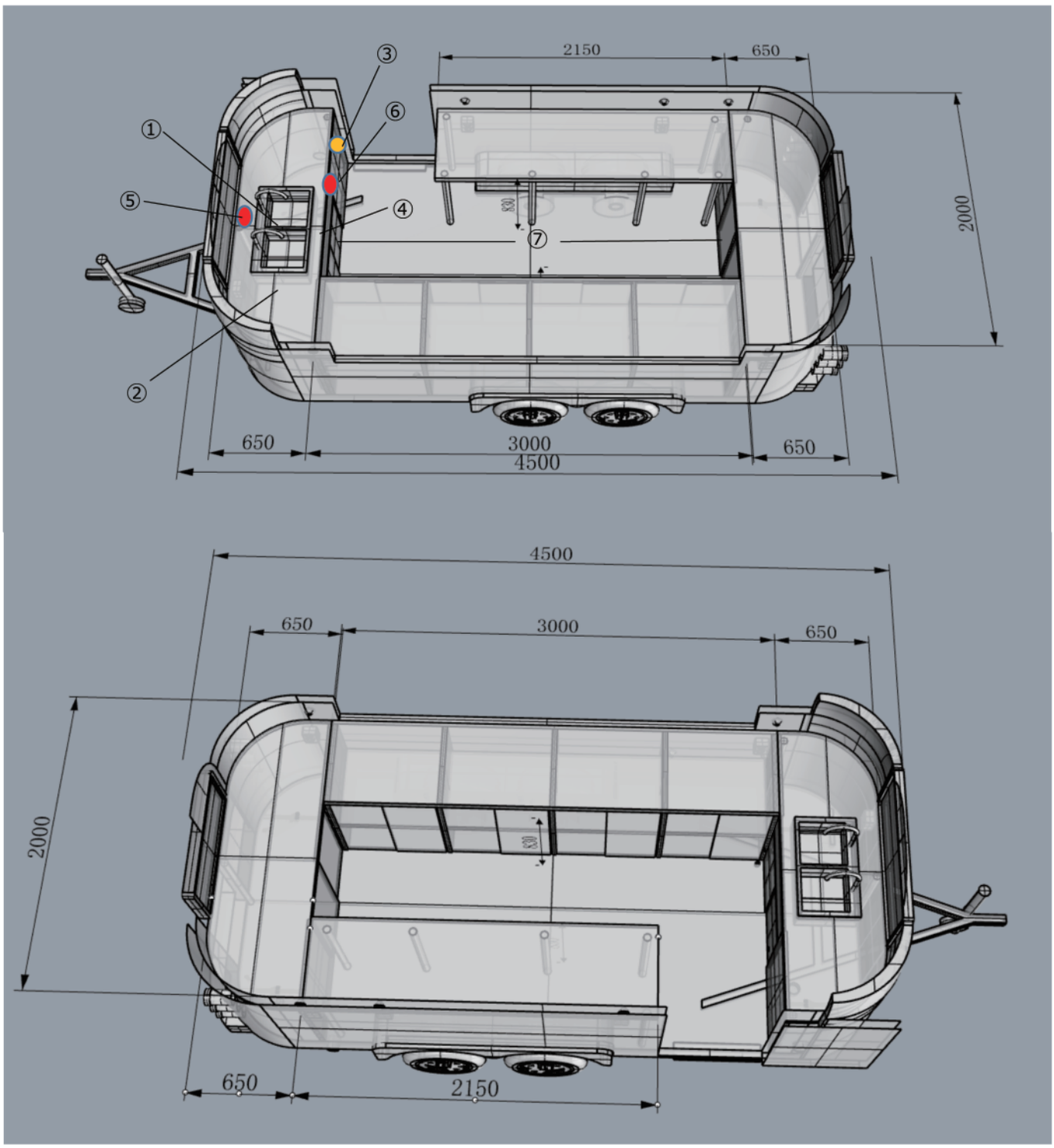
⑱　駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）はレバーを上に引き上げロックをロック止めにあてて駐車ブレーキを掛けます。停車する場合は必ず駐車ブレーキをかけて下さい。
△警告：牽引車と caprice の接続を解除する場合は強めに駐車ブレーキをかけて下さい。
また、安全の為、車輪止め等必ず使用して下さい。

走行時はステップを必ず収納

スタビライザーは定期的にグリスアップして下さい。

スタビライザーの上下は上記ツールを使用。

caprice 内装図



内装サイズ

内装につきましてはオーダー時にお客様のご要望に応じてレイアウトしております。上図はオーソドックスなトレーラーのサンプルとなります。納車後配置等を変更される場合はご注意下さい。
納車時と異なるサイズのタイヤや車内仕様等を変更すると車検時に車検不合格となる場合がございます。配置等の変更でご不明点があればお問い合わせ下さい。

caprice 各部名称

内装設備

トレーラーの内装純正設備は、ダブルシンク（蛇口 2 つ）、給水タンク（100L）、排水タンク（100L）、給水メーター、ウォーターポンプ。コンセント（6 箇所）、LED 照明、スイッチ、ブレーカー、キャビン、作業台

各部名称

① ダブルシンク（蛇口 2 つ付）
② 給水タンク　100L 型 （シンク下）
③ 給水メーター （オーダーにより位置が異なります）
④ 排水タンク　100L 型 （シンク下）
⑤ ウォーターポンプ （シンク下奥）
⑥ ウォーターポンプスイッチ
⑦ 前後キャビン
⑧ LED 照明（天井埋込タイプ）
⑨ コンセント x 6，スイッチ，ブレーカー （オーダーにより位置が異なります）
⑩ 作業台、棚はオーダーにより異なります（特殊な設備を専有する面積の基準があります）

注意事項

① シンクは四角と丸型があります。
② 100L を超えて給水すると車内に水が溢れますのでご注意下さい。
③ 給水メーターは目安となりますので目視で確認して下さい。
⑤ 蛇口を止めた（水が出さない状態）のままウォーターポンプを作動させ続けるとホースやバンド、ウォーターポンプ本体にも負荷がかかり続け破損や寿命の短縮の原因になりますので水道を使用しない時はウォーターポンプのスイッチを OFF にして下さい。
⑥ LED 照明はホワイトとなります。
⑦ ▲危険：車内の許容電力は合計で 1500W となります。取出し口（コンセント）が複数あってもトレーラーの接続は 1 系統ですので、1500W を超えて使用しないで下さい。故障や火災などの原因となる場合があります。必ず使用機器の消費電力をご確認の上、安全にご使用下さい。
⑪ 📚知識：加工車（キッチントレーラー）では特殊な設備を占有する面積が総面積の 50% 以上が必要となります。内装図のサンプルの場合内寸 4.3m×2m×50%の 4.3 ㎡以上の面積が必要となります。また高さ 50 ㎝以上の扉のない棚は、特殊な設備を占有する面積に該当しません。

caprice

基本操作早わかり

（はじめて caprice をご利用になる方へ）

この章では初めてトレーラーを購入された方や caprice を初めてご利用になる方の為に、caprice の基本的な装置及び装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読み下さい。

ドアの解錠と施錠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8P

給水キャップの解錠と施錠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8P

給水方法・・・ 8P

排水方法・・・ 9P

水道の使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9P

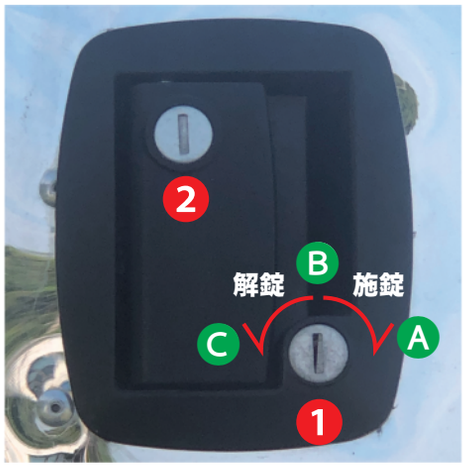
オープンセールスウインドウの開閉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10P

外部電源 100V との接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11P

牽引車との接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12P

牽引走行について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13P/14P

ドアの解錠と施錠



ドアには 2 つの鍵があります。❶がメインのロックで❷はドアノブのロックとなります。
鍵を赤の矢印ようにⒶの位置まで回すと解錠されⒷの位置に戻すと鍵が抜けます。
鍵をⒸの位置まで回すと施錠されⒷの位置に戻すと鍵が抜けます。

給水キャップの解錠と施錠 / 給水方法

■給水キャップの解錠と施錠
鍵をⒶの位置まで回すと解錠され本体を手前の方に引くと給水キャップが外せます。
給水キャップをはめて、鍵を 90 度右に回すと施錠されます。

給水メーター

■給水方法
給水キャップを外して、ホースまたはノズル等で水をタンクに給水します。車内に給水メーターがありますので、確認しながら給水して下さい。

📚知識：F を超えて給水するとタンクから水が溢れて車内が水浸しになる恐れがあります。また、メーターはセンサーで水面の位置を測定しますが反射等により正確に測定できない場合がありますので目安としてご使用下さい。

排水方法

外装図⑯の排水口のところにドレンが装備されています。左図の状態が閉まっている状態（排水されません）です。
排水を行う場合は白の矢印の方向にレバーを動かして排水して下さい。

📚知識：ドレンにホース等を接続する場合は、ドレンのサイズは 1 インチですのでホースのカプラーも 1 インチ用をご使用下さい。

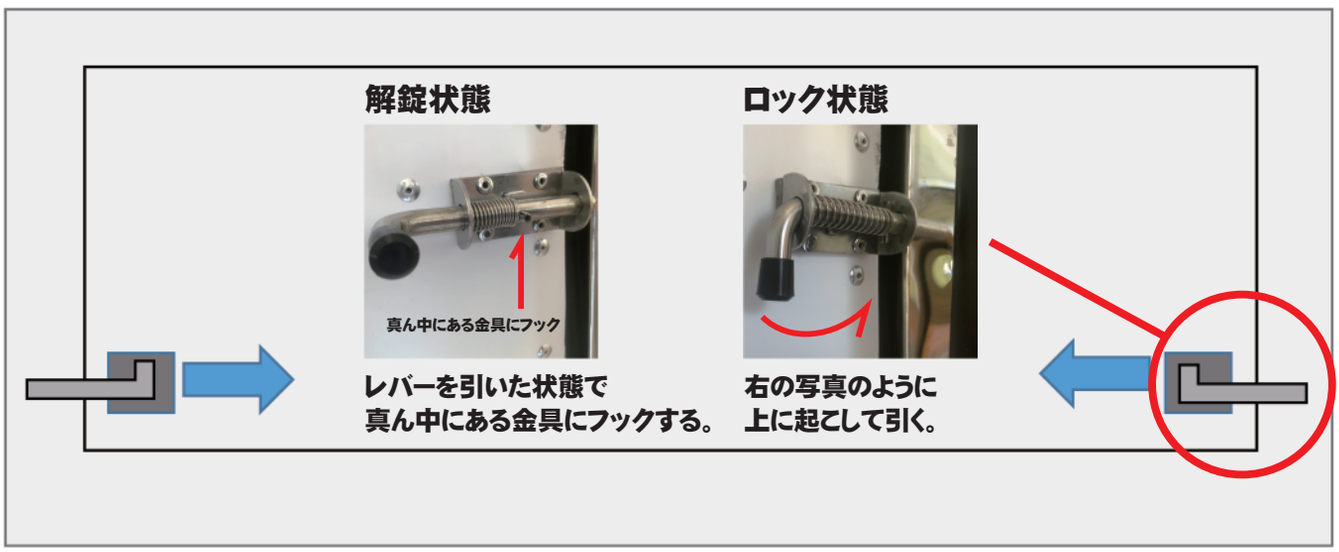
水道の使い方

内装図⑥のウォーターポンプスイッチを押し ON にするとウォーターポンプが作動して給水タンクから水を吸上げ水が出ます。

📚知識：ウォーターポンプスイッチを ON にしたまま蛇口のレバーを止めたままにしておくと、ウォーターポンプと蛇口の間のホースまたはホースバンドに負荷が掛かり、破損や寿命を縮める場合があります。水道を使用しない場合はウォーターポンプスイッチを OFF にしておきましょう。
上記のモデルのシンクは蛇口レバーのないタイプです。（スイッチ ON で水が出るタイプ）

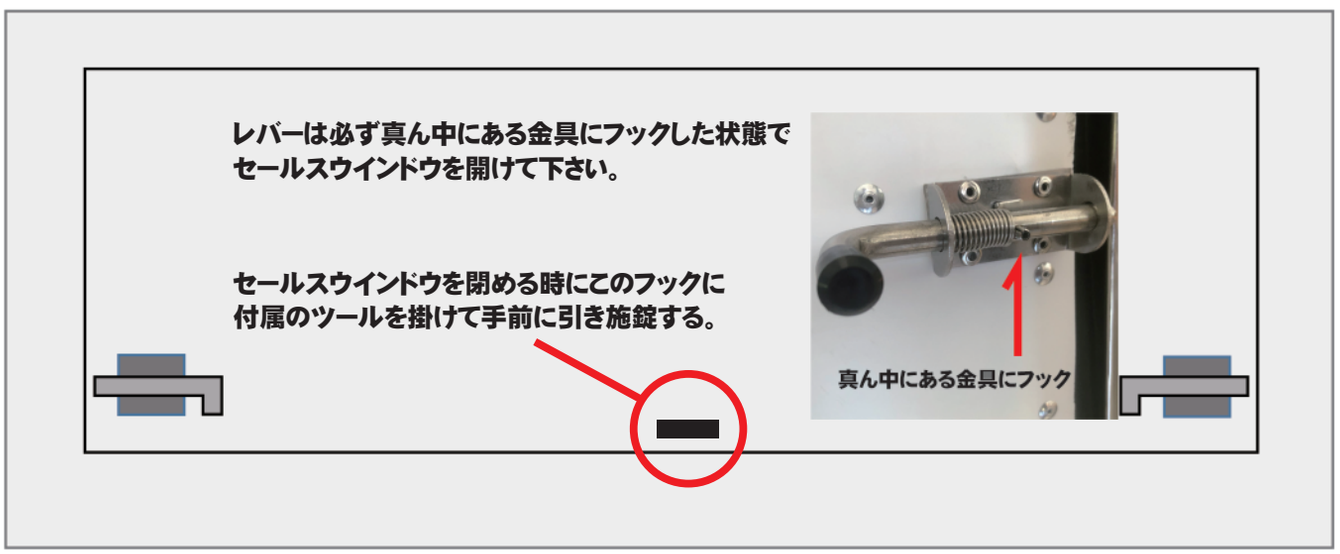
オープンセールスウインドウ開閉

■ロック状態



ロックレバーを➡⬅青い矢印の方向へ引っ張り、レバーを回転させると定位置で固定できます。

■オープン状態



⚠注意：外の安全を確認してセールスウインドウを開けて下さい。

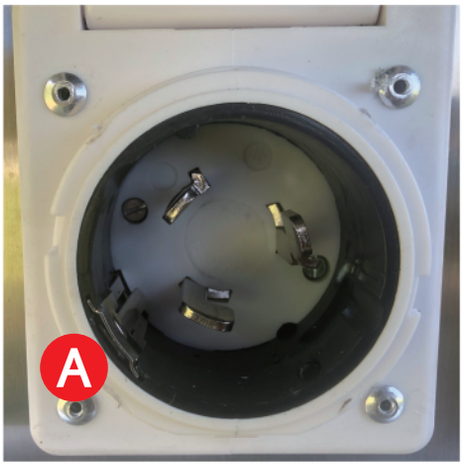
△警告：走行時は必ずロックして下さい。走行中にウインドウが開き、重大な事故の原因になります。

セールスウインドウ

セールスウインドウを閉める時、上記のツールを使用しセールスウインドウのセンターにあるフックにツールの先端を掛けて手前にひき施錠する。

caprice

外部電源（100V）との接続



外装図⑰の電源口のカバーを開ける電源カプラーがありますので、付属の電源ケーブルの車体側（左図のような形状）を接続して下さい。
＊電源ケーブルにⒶと接触するプレートが付いていますので、そのプレートを目安に差し込んで下さい。電源ケーブルの外部接続側は通常タイプの差し込みが装着されています。

発電機（ジェネレーター）と接続する場合
発電機の電源を入れ電源ケーブルのコネクターと接続します。

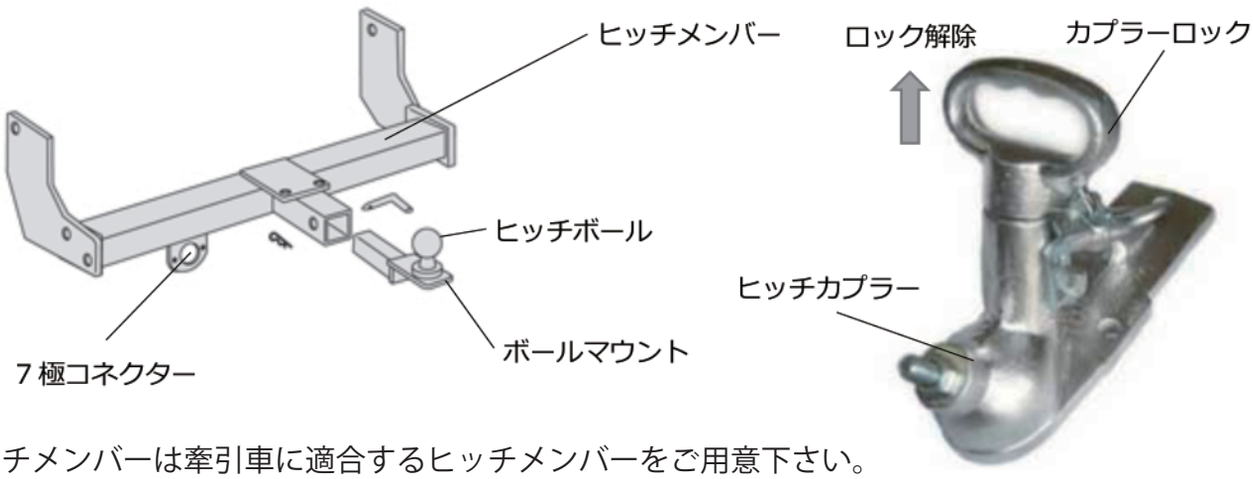
△警告：発電機の許容電量が 1500W 以上だとしても、caprice 内で、1500W 以上の電力を使用しないで下さい。使用方法によっては 1500W を超えて使用してもブレーカーが作動せず、ブレーカーが作動する前に、コンセントやスイッチ等の器具、配線などがショートして事故の原因となります。必ず許容電力内でご使用下さい。

▲危険：発電機のエンジンがかかった状態でガソリンを給油しないで下さい。屋内では絶対に使用しないで下さい。屋外でも換気の悪い場所では絶対に使用しないで下さい。発電機の使用中に出る排気ガスには有害な一酸化炭素が多く含まれており、一酸化炭素中毒を引き起こす恐れがあるため大変危険です。発電機の取扱説明書を必ずお読み下さい。

外部コンセントと接続する場合
外部コンセントに電源ケーブルを接続します。

△警告：上記、発電機の警告内容と同じ

牽引車との接続



■ヒッチメンバーは牽引車に適合するヒッチメンバーをご用意下さい。
■ヒッチボールは 2 インチ用をご使用下さい。
■ボールマウントはトレーラーを接続した時、トレーラーが水平になる高さのボールマウントをご使用下さい。

ボールマウントの高さは 40cm 前後になるものをセレクト。

＊様々なサイズのボールマウントが販売されています。水平を保つ高さの物をお選び下さい。
■ブレーキコントローラーを取付ける場合は 7 極コネクターの予備（黒）のところに配線して下さい。

⚠注意：ヒッチメンバーの牽引過荷重は 2000 kg、垂直荷重 200 kgに対応するヒッチメンバーをご使用下さい（牽引クラスは E クラスとなります）
caprice を牽引する牽引車は 950 登録が必要となります。また、牽引者には牽引免許が必要となりますのでご注意下さい。

■外装図④のロッドの先端にヒッチカプラーが装着されていますので、車体側のヒッチメンバーに装着されているヒッチボールと接続して下さい。

1　牽引車をトレーラーにできるだけ近づけて、ヒッチボールとカプラーが一直線上になっているか確認します。必要に応じてヒッチボールとカプラーが接触するまで牽引車を移動させます。
2　カプラーロックを解除してから、トレーラー最前部をホイールジャッキで持ち上げてヒッチボールの上にカプラーをのせます。
3　ホイールジャッキを格納してカプラーをヒッチボールにしっかりおさめます。カプラーロックをリリースしてロックをかけます。カプラー内側のボールロックがボールの下にある事を必ず確認します。
4　セーフティチェーンを左右に必ず取り付けます。
5　牽引車にトレーラーケーブル（7 極）を接続して、灯火器（ウインカー、ブレーキ等）が作動するか確認して下さい。
6　走行前にトレーラー各部の点検を行い運行して下さい。

▲危険：カプラーロック、セーフティチェーンは正しく装着されているか必ず確認して下さい。走行中にカプラーとヒッチボールが外れて、牽引車とトレーラーが離れて大きな事故に発展する可能性がございます。また、段差や凸凹道の走行もヒッチボールとカプラーに負荷がなるべく掛からぬようにゆっくりと走行してください。急発発進、急制動も危険ですのでご注意下さい。

牽引走行について

牽引の経験は重要なことではありませんが、牽引車単体とは走行性能が異なります。ドライバーは出来るだけ早い段階で、牽引時と単独走行時の異なる危険性を理解して下さい。経験する事によって、スピードを出す事の危険性、ゆっくりと穏やかに走行する事の大切さを覚える事と思います。
スロースタート、スローストップが原則です。

■トレーラーは、常に水平か、やや前下がりで牽引する事が大切です。
■牽引時は、ハンドリング操作とブレーキ性能の違いになれるため、急発進、急加速は避け、スピードは徐々に上げていって下さい。
■牽引中はスピードを出さないという事が最も大切です。
スピードを出せば出すほど、トレーラーに作用する空気抵抗は、トレーラーのノーズウエイトを減少させる力が働きます。スピードを出す事によるノーズウエイトの減少は、トレーラーの走行を不安定にさせ、向かい風であれば、より一層低いスピードでこの現象が発生します。
突風、横風、橋の上、大型車の追い越しなどによっても、空気抵抗によってトレーラー走行が不安定になります。（いわゆるスネーキングという現象）
そのような場合は、スピードを落とし、ブレーキを踏まずに、安定を取り戻して下さい。
●高速道路での法定最高速度は 80km/h です。
■高速道路の 3 車線で、最外側の追い越し車線を牽引する事はお勧めできません。走行車線を走りましょう。高速道路の追い越しが一番事故の多いところですので、前方に遅い車があっても追い越しは避けましょう。
■有料道路を走行する場合は、ETC を使用せず必ず人のいる料金所で精算して下さい。
（caprice を牽引している場合は通常時と料金が異なります）
■長距離移動の場合はこまめに休憩をとり連結部分の安全確認・タイヤの空気圧チェックを必ず行って下さい。
■登り坂を上る時は、ギヤを 1 速落として走行する事をお勧めします。
また、ＦＦ車で上り坂を走行する時は、雨、砂、雪などがあると滑るのでご注意下さい。
■下り坂を下る時は、スピードが出ないようより注意が必要です。
ギヤを落とす事によって、スピードも落とせます。
■長い下り坂を走行する時は、ブレーキが過熱する恐れがあります。出来るだけエンジンブレーキを使用して下り、場合によっては途中休憩しながら下り坂を下りて下さい。
■トレーラーの後退が上手に出来るのは、練習と慣れです。どんな動きに対しても、ゆっくりとスムースにハンドリングする事です。また、誰か別の人に誘導してもらいペアで後退する事が良いでしょう。

後退時のステアリング操作
① トレーラーの後退は、通常のステアリング操作と反対の操作となります。
② 最初に後退したい方向にトレーラーを向けて、戻していくのがコツです。
③ まっすぐ後退する事は非常に難易で、ステアリングを左右に動かしながら 後退する必要があります。

牽引走行について

■なぜバックが難しいのか？

ヒッチボールという「点」でトレーラーを押して、バックしている。この理屈が頭にあるかないかで、運転が大きく変わります。

ちなみに前進する時は、この「点」を起点にトレーラーを引っ張っている。引っ張って前に進むのは楽です。車の全エネルギーがヒッチボールに集中しています。

こんな小さな点で支えているので、少しでもトレーラーが曲がり始めたら最後、気が付けば修正不能なくらい曲がってしまいます。要注意して下さい。

トレーラーのバックが上手い人の運転をよく見ていると、細かくハンドルを切り、微調整を繰り返しながらバックしているのが分かります。

真っ直ぐに後進できている時は、何もしなくていいですが、必ずどちらかに曲がり出します。その曲がり幅をできるだけ小さくするのが、上手くバックするコツです。

では、上手くバックするにはどうしたらいいのか？　コツは、「サイドミラーを注意深く見る」事です。

右のサイドミラーにトレーラーが多く映ったら、トレーラーが右に曲がってしまった証拠。これを修正するには、右にハンドルを切る。右にハンドルを切る事で、逆に左に曲がってくれる。そして、トレーラーが左を向く前にハンドルを戻す。

この感覚を自分のものにするには、数をこなすしかありません。

大幅に曲がってしまってからハンドルを切っても手遅れです。膨らみ過ぎれば修正は効きません。いさぎよく諦めて、一度前進し、車とトレーラーを真っ直ぐにしてから、バックをやり直しましょう。そのまま無理に続けても、時間が過ぎていくだけです。

慣れないうちは、できる限りゆっくりのスピードか、停止してハンドルを切る。それだけで、バックが簡単になります。

また、車とトレーラーが折れ曲がったままバックを続けると、トレーラーが車にぶつかり、両方が破損しますのでご注意下さい。大きな事故に繋がりますので要注意して下さい。